

令和8年3月3日

令和8年第1回神奈川県議会定例会

建設・企業常任委員会報告資料
(その2)

企 業 庁

目 次

ページ

(報告事項)

I 「かながわの水がめ」の貯水状況と企業庁渇水対策本部の設置について----- 1

I 「かながわの水がめ」の貯水状況と企業庁渇水対策本部の設置について

神奈川県は、相模川と酒匂川の2つの水系を主要な水源としているが、相模川水系には相模ダム（相模湖）・城山ダム（津久井湖）・宮ヶ瀬ダム（宮ヶ瀬湖）が、酒匂川水系には三保ダム（丹沢湖）があり、「かながわの水がめ」の役割を担っている。

昨年からの少雨によりダム貯水率が低下したため、県内4つのダムを最大限に活用して水の安定供給に努めているが、今般、神奈川県企業庁渇水対策本部を設置したので、報告する。

1 ダム上流域の降雨状況と貯水状況

(1) ダム上流域の降雨状況

「かながわの水がめ」のダム上流域では、昨年の夏季から少雨傾向が続き、特に相模川水系では、昨年10月から12月末までの降水量は平年の50%程度となった。また、年明け以降も平年と比べて少ない状況が続いている。

[相模川・酒匂川水系ダム上流部の降雨状況（令和8年3月1日）]

区分	R7年 8月	9月	10月	11月	12月	R8年 1月	2月
相模川水系降水量 (平年比)	82.1mm (27%)	272.1mm (103%)	141.1mm (53%)	8.7mm (13%)	40.1mm (93%)	0.2mm (1%)	50.0mm (126%)
酒匂川水系降水量 (平年比)	194.5mm (45%)	405.0mm (123%)	149.8mm (52%)	19.1mm (18%)	94.8mm (139%)	0.6mm (1%)	71.1mm (102%)

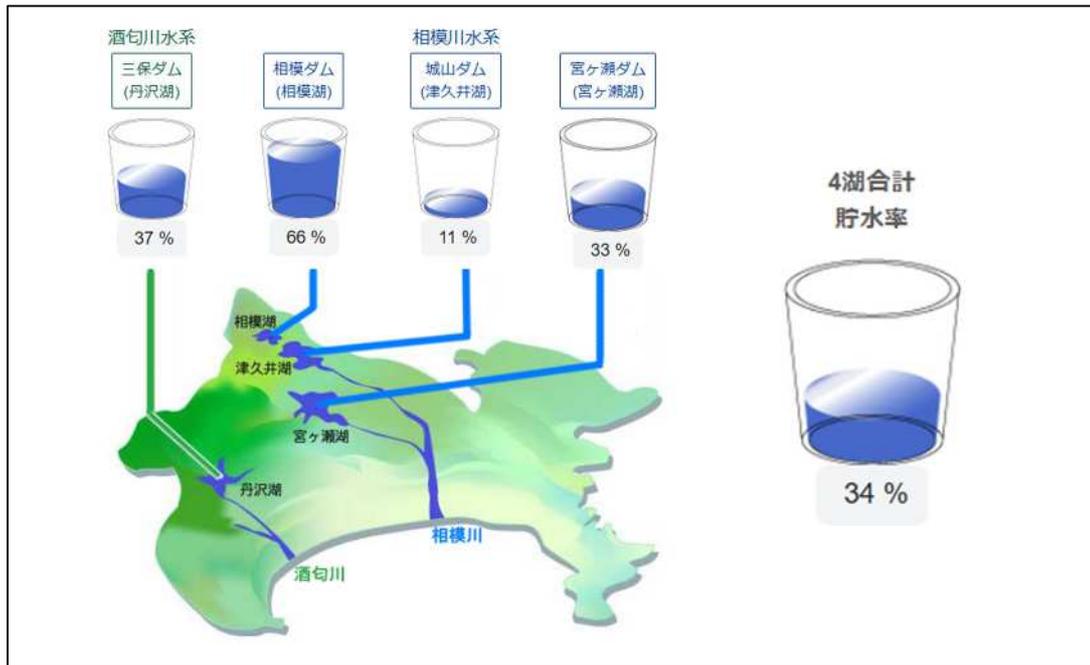
(2) 貯水状況

少雨傾向が続いたことに伴い、「かながわの水がめ」の貯水量は平年を下回る状況となっており、特に相模川水系3湖の貯水量は、平成13年の宮ヶ瀬ダム完成以降で最も少なくなっている。

[県内の貯水状況（令和8年3月1日（速報値））]

区分		貯水量 (千m ³)	貯水率 (%)	平年（10ヶ年平均）	
				貯水量(千m ³)	貯水率(%)
相模川 水系	相模湖	26,660	66	30,514	76
	津久井湖	5,724	11	38,086	70
	宮ヶ瀬湖	60,955	33	140,938	77
	小計	93,339	34	209,538	76
酒匂川 水系	丹沢湖	20,391	37	46,526	85
合計		113,730	34	256,064	77

【かながわの水がめの貯水状況】（令和8年3月1日現在）



2 貯水率の低下への対応

(1) 水の安定供給に向けた取組

相模川水系ダム群の連携による「総合運用」により、ダムの特徴を活かした水運用を行うとともに、令和7年8月末から、相模川と酒匂川の2つの水系間の連携機能を活用し、貯水量に比較的余裕のある酒匂川水系の水を優先することで、水の安定供給を行っている。

【連携イメージ】



(2) 県民への情報発信

ホームページを通じて、最新のダム貯水率の状況などをお知らせするとともに、ダムの運用や水系間連携の仕組みにより安定供給を継続していることについて、分かりやすく解説する動画（かながわの水がめは大丈夫?）を作成して、かなチャンTVで公開している。

(3) 神奈川県企業庁渇水対策本部の設置

ダム貯水率の低下が継続していることを受け、水源を同じくする4水道事業者*と協議を行った結果、東京都への臨時分水の減量などに取り組むこととし、令和8年3月3日に神奈川県企業庁渇水対策本部を設置した。なお、4水道事業者も同様の対策本部を設置する。

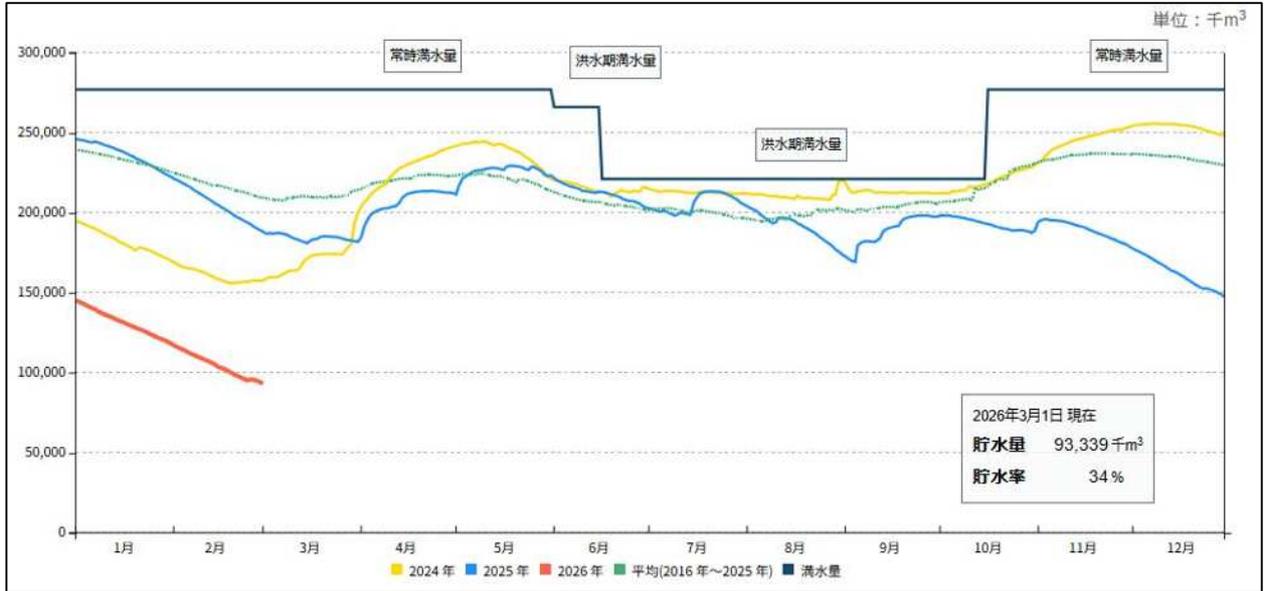
※ 横浜市水道局、川崎市上下水道局、横須賀市上下水道局、神奈川県内広域水道企業団

3 今後の取組

今後の降雨の状況などを注視しながら、引き続き4水道事業者と、ダムの貯水状況に応じた具体的な対策とその実施について、検討、調整を行う。

参考資料

相模湖・津久井湖・宮ヶ瀬湖 3湖合計貯水量の推移



丹沢湖貯水量の推移

